

## 第3回 第3次二宮町男女共同参画プラン策定委員会 議事録

日 時:令和4年11月25日(金) 13:30~15:40

場 所:二宮町役場 第1会議室

出席者:岡野委員長、谷本副委員長、夏目委員、小林委員、帰山委員、磯部委員、小野寺委員(オンライン)、加山委員

町:地域政策課2名

傍聴者:なし

### 1. 開 会

(事務局) ただ今より令和4年度第3回第3次二宮町男女共同参画プラン策定委員会を開催する。本日は傍聴希望者がいない旨、報告させていただく。

### 2. あいさつ

(委員長) これまでの会議でプランの内容をはじめ、新たな視点などについて話をしてきたが、今後は数値目標の部分について最終的にどのようなことを目指していくかの話となる。定量的な目標を定め、皆の考えを寄せていき妥当な目標値を決めていく。特に中間値については、最終目標値までのステップであり、そこにどういった根拠を置いていくのかが論点となる。活発な意見交換ができればと思う。

(事務局) 次第には記載していないが、議題2では、にのみやジェンダー平等プランの施策として肉厚にした「防災」について、防災安全課職員から町の「女性視点の防災」の取り組み、そして女性防災隊の磯部委員にもお話をいただく予定である。  
会議の進行については、設置要綱第6条に基づき、委員長にお願いする。

(委員長) それでは、議題に沿って会議の進行をさせていただく。  
議題(1)の「にのみやジェンダー平等プラン素案(案)」について事務局より説明をお願いする。

### 3. 議題

#### (1) 「にのみやジェンダー平等プラン 素案(案)」について

— 事務局説明 —

(委員長) 数値目標にある地区役員の女性割合についてだが、23%ではなく25%などといった切りの良い数字を中間目標値として設定する方が良いと思うが、いかがか。

(副委員長) 事務局説明では、女性割合の中間値については、令和14年度の目標値から

現状値の数字を引いたうえで、2で割った数字を足し23%を算出したということだった。今後のなだらかな推移を考えた数字ということで理解ができる。

- (事務局) 四捨五入や切り上げを行い、切りの良い数字にすることも考えられる。
- (委員長) 順調に数字を増やしていきたいという気持ちは良く理解できるが、切りの良い数字として、25%で考えるのはどうだろうか。  
順調に一定の割合で増やしていくという考えでいくのか、それとも最初のうちは重点的に増やしていくのかの違いはあると思う。
- (事務局) 特定健康診査受診率については、担当課より、受診率が定められている現計画が令和5年度までであることから、次計画の令和6年度以降に受診率の見直しをする可能性がある旨を聞いている。見直しをした場合は、このプランの目標値と相違が出てしまうが、プランの中間見直しを令和9年度に予定しているため、その見直し時に数値を合わすことを考えている。  
プラン策定後は、毎年、進捗状況調査を実施するため、進捗と目標値とを比較する管理は行っていく。
- (委員長) あえて半端な数字にして考えさせる、疑問を持ってもらうのも一つだと思うが、切りの良い数字で検討していくことでよろしいか。
- (委員) 認知度の数値目標値として、令和14年度の目標値を100%としているものが3つあるが、それは厳しいのではないか。  
一つの手法として、例えば、義務教育で子どもたちに教育をしておくことで将来的に100%を目指していくということなら分かる。広報紙や新聞などといった一般的な啓発やPRで、認知度が100%になることは難しいと思う。
- (事務局) 昨年度に実施したアンケート調査でも、意識改革をするには小さい頃からが大切という回答もあった。  
また、校長会でも制服の見直しを考えていくなど、具体的な話が出てきているところである。  
これらの認知度については、総合計画に基づく町民アンケート調査の結果で認知度の推移を把握していくことになるが、周知・啓発を図っていき、100%を目指していきたいと考えている。
- (委員) 目標値をどう捉えるのかである。確かに認知度が100%になるのは難しいことだと思うが、逆に認知度だからこそ100%を目指すという考え方はあると思う。達成できる数字を目標値として設定するのか、目標としたい数字を設定するのかである。何事においても知るということは第一歩である。そういう意味では、認知度として100%を目指すことは良いと思う。
- (委員長) 逆に数字が100%でないのも何かおかしい感じもする。認知度を上げていくことで、最終的に100%を目指す。その中間値として80%、90%というのは妥当な設定ではないだろうか。
- (委員) 目標値の考え方は、コミットするものなのか、努力目標とするものなのかの2種類あると思う。その点を踏まえて設定をしていけば良いのではないか。

- (委員長) 中間値だが、もっと早く認知度を高めるということで、より高い数字を設定することも考えられるのではないかと。少しずつ順調に認知度を伸ばしていくのか、早急に認知度を上げていくのかである。
- (事務局) パートナーシップ宣誓制度の認知度のみ中間値を80%で設定した。理由としては、現状値が他の2つの認知度より低いためであるが、ここについてご意見をいただきたい。
- (委員長) 同じカテゴリーのものであると考えると、数字は合わせた方が良いのではないかと。
- (委員) 3つの認知度を1セットとして、90%に揃えても良いのではないかと。
- (委員) 達成目標なのか、目指したい目標なのかであるが、これは後者である。パートナーシップ宣誓制度の現状値が57%で、他の2つより低いことから80%としているのは分かる。
- (委員) 中間値の数字は揃えて良いのではないかと。知ってもらうための広報啓発活動は、3つセットで実施していくものだと思う。パートナーシップ宣誓制度は他の2つより後に出てきたものであり、スタートが異なるため認知度に差があると思うが、今後の普及啓発のことを考えると揃えた方が良いのではないかと。
- (委員) LGBTQ とパートナーシップ宣誓制度は同じ方向のものであり、また、セットのものだと考えると数字を揃えて良いと思う。
- (事務局) いただいたご意見のとおり、3つセットで認知度を上げられるよう広報啓発を考えていきたい。
- (委員長) パートナーシップ宣誓制度の認知度が低いから中間値を低く設定するのではなく、3つセットでさらにパートナーシップ宣誓制度に重点を置いて啓発を行っていくのが良い。認知度の中間値については、数字を90%で揃えるということが良いのではないかと。
- (事務局) 数字を90%に揃えさせていただく。
- (委員) 未病センター利用者数について、月80名の利用者数を見込んで12ヶ月で960名という事務局の説明だったが、中間値と令和14年度が同じ数字ということは、どちらも一日当たり4名ぐらゐの利用ということになる。それは一日の受入可能人数の最大値であることから、そういった設定をしているのか。
- (事務局) 平成29年度の実績として年間1,065人という数字があるため、月80名以上の受け入れは可能であると思う。
- (委員) そもそも未病センターはどういった方が利用するのかが分からない。相談することなどもできるのか。
- (事務局) 未病センターは、保健センター内にあり、測定機器を使用して血圧や血管年齢、脳年齢などを測定することで、自身の健康状態を知るセンターである。平日に20歳以上の方が無料で利用ができる。

- (委員長) 一日の受入可能人数はあると思うが、それがどこまでなのか。
- (委員) スペースとしては狭く一度に大人数が行けるところではない。利用を待つ時もある。
- (委員) 私が利用した時も待った。
- (事務局) 利用時は、どのくらいの方がいたか。
- (委員) その日によって異なると思うが、私が利用した時は15人ぐらいいた。健康度見える化手帳や問診についての記入があるため時間がかかり、あまりスムーズではないところがある。
- (委員) 確かにそうである。
- (委員) 保健師からアドバイスなどをもらえたりするのか。
- (委員) いつも居るかは分からないが、私の時は保健師がアドバイスをくれた。
- (委員長) 話を聞くと、数値目標を大きな数字にすれば良いという問題でもないように思うが。
- (委員) そうだと思う。
- (委員) もっとスムーズに利用ができるシステムでないと、せっかく自分の健康状態を知りに行ったのに待ってしまうというのはどうかなと思う。
- (委員長) 数値目標を平均待ち時間にした方が、利便性の面では適切だったりするかもしれない。
- (委員) 町にせっかく未病センターという場所があるのに、どこにあるのかとよく聞かれる。
- (委員) 私も今、場所を調べたところである。
- (委員) 場所を知らない人が多い。
- (委員) 未病センター自体の認知度を高めることが必要かもしれない。
- (委員長) 例えばだが、目標値として認知度100%の設定も考えられるかもしれない。
- (副委員長) 未病センターを利用したことがあるが、測定機器の使い方を順番に説明してくれ、とても丁寧に対応してくれた。年1~2回利用しているが、待った記憶はない。今後高齢化が進んでいく中で、近くに住む方は良いのかもしれないが、保健センターまでの交通手段などを考えると、令和9年度から令和14年度までの数字は特に増やしていかなくても良いのではないかと。
- (委員) 緑が丘や百合が丘に住む方が、わざわざ保健センターまで行き利用するのかである。百合が丘商店街内などにあれば行くのにという声もあった。
- (委員長) 話を聞いていると、単純に人数の話だけでないように感じる。自身の健康を日常的に管理しましょうというメッセージを発信することが大切である。
- (委員) 現在、広報紙などで周知をしているのか。
- (事務局) 開設時当初は、他自治体にあまり設置されて無かったこともあり、広報紙で大々的に取り上げた記憶はあるが、その後は、特集記事などを組むといったことはしていないように思う。
- (副委員長) コロナの関係で、利用を停止していた時期もあるのではないかと。
- (委員) 目標値を実績値よりも低く設定するのは珍しいと思ったが、そこはコロナが

関係しているかもしれない。

(事務局) 平成29年度の実績値は、この年度に未病センターが開設されたことで利用者が多かったようである。令和3年度の実績値については、コロナ禍での数字となるため、プラン上では平常時の数字が記載されていない。

(委員) 施設の利用者数が一日4人というのは少ないように思う。利用者数でなく他の数値目標でも良いのかもしれない。

(委員) 以前から未病センターは行ってみたいと思っているが、まだ行くことができていない。未病センターの周知が足りていないとは感じているが、数値目標としては利用者数で良いのではと思う。

この数値目標に限らずだが、その数値目標がどういう意図があって設定され、その数字になったのかを今の私たちは分かっているが、令和9年度の間見直し時には、それが分からず意図が伝わらないのではないか。

未病センターの利用者数については、担当課が今の利用状況から算出したものであればそれで良いと思う。そこにただし書き、注釈を入れることができれば、中間見直し時に、利用者数も増加し認知度も広がってきた、そういった評価ができるのではないかと思う。

(委員長) 数値目標として利用者数を設定するのであれば、一緒に認知度も上げていくことになる。令和9年度、令和14年度に同じ数字が入っていても人口は減っていくため、割合のパーセンテージは上がっていく。それをこの欄で表現できればと思うが、何か注釈などが必要ではないだろうか。

今後、数値目標について議論する場はあるのか。

(事務局) パブリック・コメント実施後に、パブリック・コメントの意見を踏まえた最終案をお示しする場がある。

確かに認知度が上がらないと利用者数は増えない。プランに未病センターの紹介を入れるなどといったことは可能である。

(委員) 施策8の「心と身体の健康づくり支援」での目標値であることを考えると、実際に未病センターに行って健康状態を把握してもらわないと意味がないように思うため、利用者数で良いのではないか。

ここはパブリック・コメントを実施してみると、分かる部分かもしれない。「未病センターとは」といったような質問が出てくるようであれば、何か工夫が必要ではないか。

(委員長) パブリック・コメントを実施する際に、何か注釈などをつけることはできるのか。

(事務局) 注釈などを別資料で用意することは予定していない。

(委員) コラム扱いにして、プランの余白部分に未病センターの紹介、場所案内などを入れるのはどうだろうか。

(委員長) コラムを入れることで、認知度を増やすことと利用を促進していくことができると思う。

本日の段階では、紙面を工夫したうえでパブリック・コメントを実施するとい

うことでどうだろうか。

(委員) 施策9の「あらゆる暴力の根絶」の数値目標についてだが、町ホームページと広報紙で、DV やデート DV の相談窓口を周知した回数ということか。

(事務局) 相談窓口の周知に加えて、啓発関係の回数も含めてとなる。

(委員) 回数としては少ないような気がする。世間で DV が騒がれていることを考えると、もう少し回数を増やしてもいいのではないか。

(委員) 広報紙だと紙面の関係もあり、DV の記事を毎月掲載することは難しいと思うが、仮に、ホームページに1回でも掲載すれば、その後も継続されて掲載が続いていくものだと思う。

(事務局) 広報紙面の下部に短文となるが掲載できる箇所があるため、そういったところを活用していきたい。

(委員長) 相談できる場所があることを知らせるのが大切である。

(委員) 広報紙の記事でなくても、何か工夫できることがあれば。

(委員) 広報紙やホームページ以外で、周知する手段はないのか。

(事務局) 町 facebook が考えられるが、〇〇週間などといった時に広報紙やホームページに掲載したうえで、facebook にもそれを投稿するという形になる。その他の周知方法としては、窓口に配架しているリーフレットなどがある。この数値目標設定時にリーフレットなどの配架回数も含めることを検討したが、カウントすることが難しいこともあり、ホームページと広報紙への掲載回数のみにした経緯がある。

(委員) 広報紙に毎月1行でも掲載ができれば、12 回となる。

(委員長) 小さくても常にどこかに掲載されていることが大事だと思う。

(委員) 広報紙への記事掲載は争奪戦でもある。以前、防災記事の掲載依頼をしたことがあるが、なかなか難しかった。

(委員長) 毎月掲載する努力をしましょうということで、目標値としては月1回ベースで12回はどうか。

(事務局) そうさせていただく。

(委員) 男性職員の配偶者出産休暇及び育児参加休暇の取得率の部分だが、ここは育児休業取得率と同様に、パーセンテージだけでなく対象者が何人いて何人が取得したかの人数を記載するのはどうか。100%達成した場合でも取得人数の記載があると分かりやすいと思う。

(事務局) 人数を併記させていただく。

(委員) そもそも対象者が少ないことから、パーセンテージは乱高下してしまうところはあると思う。

(委員長) それも含めて規模や推移が分かることが大切である。

(副委員長) 数値目標ではないが、文章の部分で気になったところがある。25ページの「社会的に弱い立場になり得る高齢者やひとり親家庭、ひきこもりの方、障がい者」とあるが、外国籍の方はここに含まれないのか。町にも外国籍の方が増えている。昨日、社会福祉協議会の心配ごと相談で民生委員がそうい

った話をしていた。いろいろな困りごとを抱えている方に含まれるのではと思うが。

また、その文章に続く「女性であることによって」という文言についてだが、これは記載した方が良いのだろうか。

(委員長) 「女性であることによって」を削除しても文章としては成り立つ。この主旨としては、女性であることによって困りごとがあるのではないかということではないか。

(副委員長) 見た記事の中で、高齢者単独世帯の女性は男性の3倍いるが、その半数近くが貧困にあるとあり、女性にスポットを当てても良いのかと思ったが、よくよく考えると女性だけではないとも思った。

(委員) 逆に、差別になるということか。

(副委員長) 差別というか、女性の場合も多くあるが、さまざまな状況を鑑みると男性もあり得ることであり、あえて女性という言葉を入れなくても「複合的に困難な」という言葉で意図は通じるのではないか。

(委員) ひとり親家庭であってもシングルマザー家庭の方が、明らかに平均収入が少なく、ひとり親家庭の中にさらに男女格差がある。

ここはプランの施策の一つ「多様な家庭の安心な暮らしの形成」の導入部分の文章であり、一般的な総合計画の内容ではなく男女共同参画プランの文章であることを踏まえると、男女格差があることに対して配慮していこうという文章はあえて無くても良いかもしれない。男女格差として、経済格差、力関係は存在するものではあるが。

(委員長) 既にいろんな方も包含するという意味では、無くても通じるように思う。

(委員) 町の施策として、町営住宅に優先的に入居できるなどといった施策があれば話が異なるとは思うが。

(委員長) 特に女性に対する施策などが無ければ、削除する方向でよろしいか。

(委員) 外国籍の方の記載は必要ではないか。町内会で外国籍の方が組長をやっているが、言葉や慣習の違いで困っているところがあると思う。

(事務局) 外国籍の方に関する施策が何かあれば良いが、そうではない。

(委員長) 男女共同参画プランの内容かと言われると、視点が違うようにも思う。

(委員) 県では、外国籍の方のために、多言語で相談ができる DV 相談窓口がある。男女共同参画プランとして考えると、外国籍の方向けの施策は少し難しいものかもしれない。重要な視点ではあるが、プランとして具体的な施策が伴っていないのはどうだろうか。

(委員長) 男女共同参画とは別の軸にあるようにも思う。

本日の話の流れとしては、記載はしない方向でよろしいか。

(事務局) 女性への支援や施策、外国籍の方の施策について確認をさせていただく。

## (2) その他

### ① 防災安全課職員による「女性視点の防災について」

## ② 磯部委員による「女性防災隊の活動等について」

- (副委員長) 日頃から防災グッズを揃え、寝室には持ち出し用リュックや靴、水のペットボトルを常備している。冬の寒さ対策に使い捨てカイロを用意しているが、夏の暑さに耐えられるような防災グッズや何かヒントはないか。
- (委員) 冷却シートやうちわ、扇子、また、冷凍室には常に保冷剤を多めに入れている。
- (副委員長) 古い家に住んでおり、家がつぶれてしまうのではと心配している。
- (委員) 築50年の古民家に住んでいるが、住宅の外側から設置できる家屋減災プロテクター「かぞくまもる」を設置した。少し値が張るものではあるが、外から通し柱などに取り付けることができる。設置した家は東日本大震災でも家が倒れなかったという。
- (委員) ガス、水道、電気の復旧日数の話があったが、下水道はどうか。  
家の裏に水が湧き出ており、そのマンホールに水が溜まるようになっているため災害時にトイレの水を流すことに困らないが、その先にある下水の配管が詰まっていると大変なことになってしまう。
- (防災安全課) 災害時のトイレとして、マンホールトイレがあるが、阪神淡路大震災でトイレ問題が発生したことで考えられたトイレである。  
その後の中越地震時にマンホールの隆起が発生したことで、現在は段ボール式トイレ、簡易トイレが主流である。  
備蓄に関連して先ほど話があったが、普段から多めに食材を購入するローリングストックが現在言われている。  
建物の耐震については、例えば、寝室など一部屋だけでも安全な部屋を確保するといったことであれば、費用も抑えられる。  
自治会未加入の方については、災害時の安否確認などが課題となっている。
- (委員) 興味を持っていた分野なので、とても参考になった。
- (委員長) 避難所での生活をイメージした場合、どう感じたか。
- (委員) 足が悪いため人に迷惑をかけてしまうのではないかと、そこをネックに感じている。
- (副委員長) 迷惑をかけても良いと思う。
- (委員) 町民センターの階段が大変である。手を貸してくれる方はいるが、杖の方が安定感があるため、大丈夫だとお断りをしている。
- (委員長) 避難所の運営研修についてだが、中学生も一緒に参加ができたりしないのか。
- (防災安全課) 以前、二宮西中学校の避難所研修で段ボールベッド作りの体験を行ったことがあるが、毎年の実施はしていない。  
中学生は地域から期待されている。そういった意味では防災に関心を持ってもらいたいと考えている。小学生にも防災授業を実施し、子どもの素直な感覚で防災を感じてもらうことも重要だと思っている。
- (委員長) PTA 主催で地区を交えて防災研修をするが、その場限りの印象が強い。



町が本気でやっているところに中学生が参加すると中学生の意識も違ってくと思う。

(防災安全課) とてもそれを感じている。地区の自主防災訓練を20地区で順番に実施してもらっているが、ある地区では訓練に中学生が参加している。非常に良い雰囲気となるため、他の地区でもぜひ呼んでもらいたいところだが、中学生もなかなか忙しいといった現状がある。

PTA 活動などで何か実施することがあれば、町もぜひ協力していきたい。

(委員長) 子どもたちから発信した方が、実現され採用されたりすると思う。

(防災安全課) 純粋な発言があったりと、はっと気づかされること多くあった。

(委員長) 先程、小学4年生の社会科の授業で東日本大震災をテーマにした絵本の朗読を実施したということだったが、同じ内容でも中学生に聞かせた場合、中学生の反応はまた違ってくと思う。

(委員) 確かに反応や感想は違ってくと思う。命の重みについても、小学生と中学生では感じ方が違う。中学生にもなると祖父母が亡くなった経験がある場合もあり、命の重さの理解については中学生の方が大きいと思う。

(委員長) 小学生だけに話すのは少しもったいないように思った。

防災研修もそうだが、中学生に本気になってもらうのも良いかもしれない。キャリア教育の一環として、例えば、世の中に出た時に町に物申すぐらいのアイデアを持ってその先を進んでいってほしいという思いがある。皆が本気でやっている活動に参加してもらうことは良いきっかけになると思う。

(防災安全課) 重要な活動だと思っている。今回実施し、反応を見てそう感じた。教育委員会に働きかけをしていきたい。

(委員長) 備蓄の話に関連してだが、中国では、新米を備蓄し、2～3年たった米を流通させるといったことを国単位で行っている。町や県単位での備蓄体制、特に期限がある食べ物に関しては、体制を整えることが大切だと思う。

— 事務局説明(次回会議について) —

#### 4. 閉会

(事務局) それでは、只今をもって、本日の第3回策定委員会を閉会とさせていただきます。